

## 第7回 双葉町復興まちづくり委員会 議事概要

- 日 時 : 平成25年1月17日(木)  
(前半) 午後1時00分～午後2時45分  
(後半) 午後4時00分～午後4時30分

■場 所 : 双葉町役場埼玉支所 4階 家庭科室

■出席者 : 別紙座席表のとおり

## ■議事概要

## 1. 開会

資料2に基づき、井戸川克隆双葉町長より説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- このような考え方は始まりの段階で聞きたかった。今後ご意見があれば、1日でも早く町民に示し、理解いただくようお願いしたい。
- 町の情勢が変わった場合でも、これまで復興まちづくり委員会で審議したことが無駄にならないように、維持して行ってほしい。

## 2. 議事

(前半)

## (1) 計画に盛り込む項目等について

資料3、4、5、6、7に基づき、事務局より説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- 10年にもわたる生活を「避難生活」という言葉でくくっていいのか。避難生活という言葉では弱いのではないか。
- 30年という町長の考えと復興まちづくり委員会の考えは切り離して考えるべきではないか。もっと短い期間で考えるべきではないか。30年も待っている町民はいないのではないか。
- 双葉町に帰還する時期は、放射線量によって決定するという形でいいと思う。
- 一番肝心の災害公営住宅がはっきりしていないことが問題であると思う。
- 双葉町のような原発直近の場所で30年で帰還するのはあり得ないと思う。帰りたい気持ちは理解できるが、中間貯蔵施設や除染等、現実をしっかりと考えていかなければいけない。
- 見直しという言葉はよい。30年という帰還目標をまず定めて見直しをしながら進めていくことはいいと思う。5年ごとに見直しをしながら、国の方策や技術革新も含めて考えていかないといけない。
- 30年と言われても、感覚的にわからない。

- 30年は長期間すぎて町民がついてこないと思う。また、30年という期間は高齢者にとって非常にがっかりするものだったと思う。30年という目標の前に、5年、10年、20年というようにその都度進捗状況によって検討することは当然だ。
- 災害公営住宅を作ってもらえれば、すぐに移動すると言っている人は多い。仮の町も早くつくり、今の窮屈な生活から抜け出す手助けをしなければならぬと思う。
- いまの生活は、「避難生活」に間違いない。避難生活を少しでも前が明るく見えるようないい言葉を作ったとしても、避難生活に変わりはない。
- 計画がすぐに変わるようでは困る。計画の枠組みは必要。
- 30年云々ということは何とも思っていない。災害公営住宅を早急に作り、仮設住宅、借上げ住宅の現状から脱してあげることが最善の道だと思う。このような人を救わない限り埒が明かないと思う。
- 一番心配なのは今の住宅にいつまで住んでいられるのかということである。阪神・淡路大震災の場合は借上げ住宅を災害公営住宅扱いにしている。双葉町民は避難をし辛い思いをしているので、居住環境を整える意味でも、もう一度、県外借上げ住宅の許可を出して欲しい。
- 30年という目標は結構であるけれども、5年に1回の見直しなどの一文は設けてはどうか。
- 30年経つと双葉町に帰還することは難しいと思う。仮の町ではなく、本当に定住できる町、高齢者が安心して生活できる町をつくっていかなくてはならないと思う。
- 集まれる場所がないというのが一番寂しい。人の付き合いは会わないと疎遠になってしまい、引き裂かれていくと思うので、短い期間で見えていかなければならないと思う。
- ある程度の期間を考えを持ち、決めていかなければならないと思うが、将来が分からないので先生に指導してほしい。

(後半)

(1) 各部会の審議結果の報告について

生活再建部会 高野重紘部会長、ふるさと再建部会 木幡敏郎副部会長、きずな部会 岡村隆夫副部会長より報告後、質疑。委員の主な意見は以下のとおり。

- 学校の立ち上げの形態は、社屋、廃校を借りる、仮設の校舎を建設するといったものがある。
- 現在児童生徒を集めるとなると、少人数の良さ、個別指導の良さなどの特

長を作る必要がある。

- 双葉南小学校、双葉北学校を合わせて、1つのところに集めるという形ではできるが、サテライトのような分散は難しい。
- 双葉の名前が付いた学校がないというのは、子どもがかawaiiそうである。
- 仮の町に向けた取組では、デメリットの部分を出し合い、対策を先に講じるべきだと思う。
- 子どもが帰って来なければ、先がないという事を含めた形で、将来がある子どもたちに対してどのような対策をしていくかということを考えれば、自ずと双葉町は必ず良くなり、絆が繋がっていくと思う。
- 子どもたちの環境がどのようなものだったのかという中で、次の世代に引き継いでいくものは何かということを考えていかなければならないと思う。
- 新電話帳の利用価値の問題考えていたら時間がかかりすぎると思う。また、取り残しが必ず出てしまうという問題が出てくると思う。
- 新電話帳を作ることに賛成である。しかし、個人情報になるので、載せる、載せないは個人で判断をさせるべきである。
- 中間貯蔵施設は今後の復興に影響があることなので勉強会をしたい。
- 町民の代表者の委員の意見も含めた形で、中間貯蔵施設についてやはり知るべきではないか。

### (3) その他

## 3. 閉会

# 第7回双葉町復興まちづくり委員会座席表

(敬称略)

岡村 隆夫  
三井所 清典

1 日時 平成25年1月17日(木)

全体 13:00~14:45  
部会 15:00~15:45  
全体 16:00~16:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

福島復興局地域班 小野寺 恵二 参事官	(関係者)	高野 重紘	宇杉 和夫	井戸川町長	相楽
		大橋 庸一	木村 真三	事務局 駒田 義誌	事務局 橋本
		吉田 岑子		平岩 邦弘	西牧
福島県 避難地域復興局 安斎 浩記 総括主幹兼副課長	(関係者)	井上 六郎	竹原 天	井上 一芳	吉野
福島県 避難地域復興局 古市 寛之 副主査		中村 富美子	藤田 博司	高野 憲一	事務局 尾崎
		岩元 善一	齊藤 宗一	武内 裕美	山崎
税務課 大沼 武 課長		(代理) 横山 泰仁	中村 希雄	大住 宗重	松崎
生涯学習課 今泉 祐一 課長	(関係者)	末永 幸弘	木幡 敏郎	渡邊 勇	事務局 森
		松本 浩一	西内 芳徳	竹本 良一	
		荒木 幸子	渡邊 ゆかり	(代理) 志賀 睦	
			伊澤 慶昭	(代理) 井戸川 陽一	事務局